

2016年度町田市スポーツ推進審議会 議事要旨

日時	2017年2月28日(火) 18時30分から20時30分
場所	町田市役所 10階 会議室10-2
出席者	川崎 登志喜 委員(会長) 玉川大学教育学部教授 宮崎 光次 委員(職務代理) 桜美林大学健康福祉学群教授 永吉 英記 委員 国士舘大学体育学部准教授 山本 正実 委員 町田市体育協会理事長 市川 健一 委員 東京都障害者スポーツ協会副会長 守屋 実 委員 NPO法人アスレチッククラブ町田代表理事 佐藤 正志 委員 町田商工会議所 専務理事 柴田 智 委員 社会福祉法人悠々会・ケアフルクラブ悠々園施設長 菊盛 由利子 委員 市民委員 新宅 雅也 委員 市民委員 大川 武司 委員 南中学校校長
欠席者	なし
事務局	文化スポーツ振興部長 田後 毅 文化スポーツ振興部スポーツ振興課長 能條 敏明 文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長 林 啓 文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 喜多 和則 文化スポーツ振興部スポーツ振興課主任 笹川 智絵 文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事 地福 友美
傍聴者	なし
議事	1 開会 2 新任委員・事務局自己紹介 3 議題 (1) スポーツ推進計画2016年度進捗状況について (2) スポーツ推進計画アクションプラン2016年度事業実施状況について 4 報告 (1) 次期町田市スポーツ推進計画の策定について
資料	資料1: スポーツ推進計画2016年度進捗状況 資料2: 町田市スポーツ推進計画アクションプラン進捗状況まとめ(2016年度) 資料3: 町田市スポーツ推進計画アクションプラン事業実施状況(2016年度) 資料4: スポーツに関する市民意識調査アンケート概要(2016年度) 資料5: スポーツに関する市民意識調査アンケート集計表(2016年度) 資料6: 次期町田市スポーツ推進計画の策定について

1 開会

2 新任委員紹介

- ・町田市立公立中学校長会の代表について、前任の比良田委員から南中学校の大川委員に交代となった。

3 議題

(1) スポーツ推進計画2016年度進捗状況について

[事務局が資料1、4、5を基に説明]

(2) スポーツ推進計画アクションプラン2016年度事業実施状況について

[事務局が資料2～5を基に説明]

(柴田委員)

スポーツ指導員登録制度の見直しについての状況を教えてほしい。また、地域スポーツクラブの総クラブ数は、目標である20クラブを達成するのは難しいと思うが、市としての取り組みはどのような状況か。

(事務局)

スポーツ指導員登録制度の見直しは、体育協会と話し合いの場を設けているが、費用面や人員不足等の課題があり、実施に至っていない状況である。他市区町村では、地域スポーツクラブが部活動の指導等を行っている場合もあるため、様々な可能性を探っている状況である。今後も情報収集を続け、市としてどのような形がよいか検討を進めていきたいと考えている。

地域スポーツクラブは、地域が主体となって設立したクラブを市が支援している状況であるため、思うようにクラブが増えていない状況である。

(永吉委員)

市民意識調査アンケートはどのように活用していく予定であるか。

(事務局)

例えば、ホームタウンチームについては、このアンケートの認知度の数値を参考に、PR活動に努めている。すべての事業にこのアンケート結果を反映できているわけではないが、事業を実施していく上での根拠としても役立っている。

(新宅委員)

全国大会等出場者祝金支給事業は、申請の条件が厳しいのではないかと。

また、武相マラソン大会支援事業は目標が高すぎるのではないかと。近年のマラソン大会の傾向では、記録がでやすいところに出場者が多くなる傾向にある。出場者数を増やすためには、コースを変える等の工夫が必要ではないかと。

(事務局)

全国大会等出場者祝金支給事業は、申請のご相談をいただいて、条件に満たない場合はお断りする場合もある。ただし、他市区町村と比較すると申請条件は決して高くない。

武相マラソン大会支援事業の集客に関しては、市としても盛り上げているところである。コースを変える等の工夫については、陸上競技場を拠点として考えると難しい状況にある。

(新宅委員)

坂をすべてなくすコースは難しいと思うが、鎌倉街道や鶴川への道も利用していくと良いのではないかと。武相マラソン大会に新たな魅力をつくっていただきたい。

(守屋委員)

小山上沼調整池整備事業について、市民が利用しやすいスポーツ施設を整備していただきたい。立地からすると照明等もつけやすいのではないかと。

(事務局)

承知した。検討を続けていく。

<各委員からの意見を聴取>

(守屋委員)

先ほどの説明にもあったが、女性・障がい者のスポーツ推進に課題を感じている。スポーツ実施率向上のためにも事業を進めていきたいが、スポーツをする場所がない状況である。より良い環境を整備していただきたい。

また、スポーツ指導員登録制度については、市内にもスポーツ指導員になっていただけるような方が沢山いると思う。ぜひ進めていただきたい。

(柴田委員)

市民意識アンケート調査はとても参考になった。働き盛り世代のスポーツ実施率が低い点は残念である。我々としてもその世代にアプローチし、支えていきたいと思った。

地域スポーツクラブ支援事業や全国大会等出場者祝金支給事業等は、一般の方が知らない場合も多いと思うので、周知を頑張っていただきたい。

(佐藤委員)

市民意識アンケート調査では、忠生地区のスポーツ実施率が高い点が印象的だった。近隣周辺にプール等のスポーツ施設があるからだろうか。働き盛り世代のスポーツ実施率は、まだまだ改善できるものではないかと思った。

また、冒頭のキャンプ地招致活動等の中でムスリムの方々の食事や生活習慣についての話題があったが、市内に町田予防衛生研究所がある。何か役に立てるかもしれないので、紹介させていただきたい。

(新宅委員)

ウォーキング教室を開催しているが、「みんながいるから」という理由で参加されている方が多い。高齢者の方がもっと元気になってもらえるよう、告知やイベントに力を入れていきたい。

ファミリースポーツの推進については、町田市立陸上競技場でファミリー駅伝を開催している。子どもたちにぜひ参加してもらいたいが、各自所属しているチームの練習がある等の理由で参加できない方も多。各スポーツ団体には、ぜひその教室の時間をずらしてもらおう等の工夫をしていただいて、参加してもらいたいと考えている。

(菊森委員)

スポーツ・ツーリズム実施事業については採算面の課題があるとのことだが、どのように採算面があわないのか教えてほしい。

スポーツ情報の入手として、私自身は広報まちだを利用しているが、発行回数が減ったことにより、情報収集の機会が減ってしまった。体育館等のスポーツ教室では、広報まちだに掲載するタイミングがあわないことから特定の方にしか周知できない教室があると言われた。

また、以前参加したスポーツ教室では、高齢の方がおり、その方のペースに合わせた教室になってしまい、プログラムの充実度が下がってしまったことがある。市民の希望がもう少し伝わるといいなと思う。

(事務局)

スポーツ・ツーリズム実施事業の採算面の課題は、ホームタウンチームの応援ツアーを実施した際に、バスの借り上げ費用とツアーの参加費用の採算が合わなかったことである。

スポーツ情報や教室についての意見は、今後の事業に活かしていきたい。

(大川委員)

スポーツ指導員登録制度について、部活動では指導者が不足しがちであるため、ぜひ進めていただきたい。

また、南中学校の温水プール開放では、プールの開放日が減れば水泳部の活動が増えるという良い点がある一方で、地域の方にとっては運動する機会が減ってしまうという良くない面もある。例えば、市民の方にプール開放をしている時間帯も、2コース程度を学校の部活動に貸してもらえそうな取り組みがあると良い。

学校によっては生徒のスポーツをする場所が足りておらず、確保してほしいと言われることも多い。自分の住む地域で気軽に行けるスポーツ施設を整備し、生徒も地域の方も使えるような場所があると良いと思う。

(市川委員)

スポーツ推進委員による運動機会創出交流事業の「スポーツにチャレンジ」は、ファミリースポーツの推進を目的として実施している。参加者は、子どもだけでなく保護者もはじけたように楽しんでいるため、働き盛り世代のスポーツ実施率が低い結果であることは意外であり、改めてこの事実を認識した。

アクションプランの進捗状況に関しては、新たな課題もあるが、成果があがってきた事業をさらに拡大していくことも大切だと思う。

東京都障害者スポーツ協会の推進計画も動き出しており、そちらでも指導者不足の課題がある。市でも障がい者スポーツの事業を実施する場合は、ぜひ連携を取ってほしい。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック等国際大会をきっかけに、全国の特別支援学校のアンケートをとっているところである。アンケートをとることで、2020年以降につながるものを企画していこうと考えている。

(山本委員)

スポーツ指導員登録制度に関しては、体育協会から毎年学校支援連絡会に一人選出している。それとともに、昨年教育委員会にアプローチをしたところ、学校の先生からもスポーツ指導員の要望が強いことがわかった。しかし、現在はスポーツ指導員をボランティアとして募集することになっているため、新たな仕組みづくりが必要であることがわかった。

広報まちだについて、紙面改定があり、これまでと同じように掲載できなくなった。2017年度から体育協会のホームページを充実させていく予定であるが、スポーツ実施率を向上させるという目標がある中で、広報の機会が減ってしまっているため、対策をとっていきたい。

(大川委員)

スポーツ指導員登録制度に関しては、手当は安価で1日千円程度の支給になってしまう。しかし、文部科学省では、教員の部活動による負担が大きいことについて課題としているため、そこで改善されるとよいと考えている。

(山本委員)

神奈川県ではスポーツ指導員に関する取り組みが進んでいると聞くため参考にしてもよいのではないかと。

(事務局)

これからスポーツ人口を増やしていくためには、やはり広報の充実が必要であり、課題であると考えている。ソーシャルメディアを活用した広報も含め、検討していく。

(永吉委員)

町田市スポーツ推進計画やアクションプランの中に、市民の声を反映していくことが大事だと思う。市民意識調査アンケートから様々なことが読み取れると思うので、施設整備や事業にアンケート結果で得られた要素を盛り込むとともに、アクションプランにも生かしてもらいたい。

また、アクションプランの課題がある点について、協力できるところは協力していきたい。国士舘大学では5、6年前から近隣市と協定を締結し、学生の教員養成（教職員インターンシップ）として1年間で80人程度スポーツ指導員の派遣等をしている。小中学校や部活動、放課後子ども教室等の事業を実施している。小中学校のスポーツ指導員ニーズと学生の教員としての資質向上というニーズが上手くマッチしている。

市内にある子どもスポーツ教育学科では、まだこの事業を実施していない。もしかしたら、部活動等で上手く市とも連携できると思う。

東京2020オリンピック・パラリンピック等国際大会関連では、多摩キャンパスでも4、5カ国程度視察に来ている。外部から比較的閉鎖的である大学を利用したいという要望があり、また練習相手がほしいということもあり、大学にアプローチするケースがある。

(宮崎委員)

東京2020オリンピック・パラリンピック等国際大会関連でいうと、桜美林大学でも柔道で視察に来られた国がある。市として、そういった情報を集めることも必要になってくるのではないかと。

市民意識調査アンケートもまとめられていて良いと思うのでぜひ活用していただきたい。アンケートでは、ウォーキング・散歩の実施率が高いという点が印象的である。さらに実施率をあげるためにもウォーキング・散歩のためのコースづくり等の整備を検討してもよいのではと感じた。

また、女性の20～40歳代の実施率が低い点について、ヨガやピラティスをしている方は多いと思う。民間のスポーツ教室の中でも、ヨガを扱っているところは多い。そういったところに目を向けていくことも重要であると思う。

年代別かつ性別でわけたアンケート結果も入っていると、よりわかりやすいと思う。

4 報告

(1) 次期町田市スポーツ推進計画の策定について

〔事務局が資料6を基に説明〕

質問等は特になし

5 閉会

(事務局)

審議会でいただいた意見を、事務局でまとめ、有効に活用していく。